



# 洋上アルプス

No.278 平成30年5月5日

発行  
林野庁屋久島森林生態系保全センター



バックナンバーや屋久島国有林における入林許可申請等様式のダウンロードはこちらにあります

[http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima\\_hozen\\_c/](http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/yakusima_hozen_c/)



鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦1577-1

TEL0997-42-0331 FAX0997-42-0333



## 屋久島レク森協議会が平成30年3月期総会を開催

(3月26日)

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会は、屋久島離島開発総合センターにおいて総会を開催しました。

総会では、来賓の川畑屋久島森林管理署長より「林野庁としても今年度ヤクスギランドのトイレ改修や多言語対応の案内板設置など行っており、屋久島レクリエーションの森が、本総会を契機に名実ともに日本一のレク森として進むよう期待します」と挨拶。

協議事項については、屋久島自然休養林活性化検討会報告、平成29年度第2回一般会計および特別会計補正予算、紀元杉地盤雨水対策及びデッキ支柱の補修などが提案されました。

協議の中では委員より、奄美・琉球世界自然遺産登録を見据えた奄美との連携による交通アクセス等諸対策、冬期における県道除雪対策、簡易トイレ目隠しに使用する地杉の活用、山岳事故対応に係る携帯電話の電波状況の改善およびLINEの活用、外国人観光客への翻訳タブレットの活用、県道危険木対応、ヤクスギランドに新設された天文の森コースの活用などの意見が出され、今後の情報収集を進めると共に改善、実行に向けた関係機関への働きかけなどを確認しました。



ヤクスギランドに新設された天文の森コース

## 林業大学生が屋久島の森林・林業を学ぶ

(4月17日)

長野県林業大学校1学年の校外研修の一環として学生20名と職員2名が、屋久島の森林・林業を学ぶため昨年度に引き続いて屋久島森林管理署を訪れました。

当日はあいにくの雨天でしたが、安房貯木土場において一口森林技術指導官から屋久島の森林・林業の概要について説明を行い、続いて廣田森林整備官からヤクスギの歴史と現状について説明しました。

学生たちは、ヤクスギ土埋木の存在感ある大きさや目が詰まった美しい年輪を見て驚いた様子でした。また、土埋木を生産するための採算性や材質と販売価格

との関係性、さらにはヤクスギの生息数の減少理由など、さすがは林業を志している学生らしい質問が出され関心の高さを感じさせられました。これからの日本の森林・林業を担う人材になってもらいたいと大いに期待しています。屋久島森林管理署や当センターでは、本年度も外部からの研修等の受け入れを積極的に行い、人材育成の一助となるよう努めていく考えです。



説明する廣田森林整備官

## シカ捕獲研修会を開催 (4月13日)

屋久島森林管理署と当センターでは、連携しながらヤクシカを職員実行で捕獲しており、平成29年度は185頭を捕獲するとともに、委託事業や協定捕獲等を含め449頭を捕獲しています。

このような中、屋久島森林管理署会議室において、罠の免許更新及び新規取得の職員8名に対して有害鳥獣捕獲従事者研修を開催しました。午前中の座学研修に続いて午後からは、技術の向上を目的に職員20名が参加して実技研修会を開催しました。実技研修会では、初めてくくり罠を設置する者を中心に、設置のコツや安全な取扱い方法、電気止め刺し器の使用方法などの指導を受けました。

屋久島森林管理署及び当センターでは、ヤクシカによる屋久島の貴重な森林生態系や農林業への被害を抑えるために、屋久島町、地元猟友会などの関係機関と連携しながら、本年度も職員実行と併せて委託事業や協定に基づくヤクシカ捕獲に取り組む考えです。



くくり罠設置の実技

## 屋久島を外来種から守れ！ (4月20日)

当センターにおいて、屋久島森林生態系保全センター、屋久島森林管理署、環境省、鹿児島県、屋久島町役場など関係行政機関による「平成30年度第1回屋久島外来種対策行政連絡会」が開催されました。

今回は、各行政機関から平成30年度における外来種に係わる取組が紹介され、国有林内におけるアブラギリ駆除や住宅等に侵入したヤンバルトサカヤスデの駆除対策、アメリカハマグルマのパークボランティアとの共同駆除作業、島内外来植物(木本類)侵入分布図の作成、各機関における普及啓発活動などを説明、意見および情報交換を図りました。

また、外来種対策の現場視察では、屋久島森林管理署が本年度予定しているアブラギリの伐倒駆除をベースに行うことを確認し、最後に連絡会としての情報共有化など連携強化を確認して終了しました。



外来種対策行政連絡会の様子

## 屋久島の外来植物 <カミヤツデ>

- ・(紙八手木)ウコギ科カミヤツデ属。別名:ツウソウ(通草)、ツウダツボク(通脱木)・中国、台湾原産 常緑低木。
- ・強健で栽培容易。日当たりがよく、湿潤な土壌を好む。
- ・葉は70cm程の大柄な掌状深裂の形で、深く5~9裂し、先が浅く2~3裂し、細かい鋸歯がある。葉質は遙かに薄く、艶がない。
- ・花期は11~12月頃で、普通のヤツデと同様に淡黄白色の丸い小花の塊があり、その塊の集団が円錐形になる。
- ・茎の髓から通草紙(つうそうし)という造花や書画で使う紙の一種をつくり、これが「紙八手」という名前の由来となっている。
- ・屋久島で島内の海岸部、低標高域によく見られる。



カミヤツデの花



道路脇に繁茂するカミヤツデ

## ヤクシマママコナの話 (第2回)

### ——— どんな昆虫が花に来る? ———

長谷川匡弘 (大阪市立自然史博物館)

洋上アルプス277号でヤクシマママコナの花の形についてお話ししましたが、今回は花に来る昆虫に関する話です。一般に、目立つ色、香りがある、花が大きいなど、目立つ特徴を持っている花には、何らかの動物が蜜や花粉を求めて訪れます。植物側はその際に、訪れた動物の体の一部に花粉をつけて、同じ種類の別の花に花粉を運んでもらいます。植物の中には、うまく花粉を動物につけて、次の花に運んでもらうために、その動物の形に合った花の形になっているものもあります。

日本のママコナは全部で5種認められていますが、そのほとんどは、ハナバチ類、その中でも舌の長いマルハナバチ類によって花粉が運ばれ、花の長さはマルハナバチの舌の長さによく一致しています。つまり、マルハナバチが蜜を吸おうと花の奥へ口を突っ込んだ時に頭部～胸部の背面にうまく花粉が付くようになっているのです(図1)。

さて、ヤクシマママコナについてです。前回はヤクシマママコナの花の長さが短い、という話をしました。ということは、よほど舌の長さが短いマルハナバチが屋久島にいるのだな、と思われるかもしれませんが、実はヤクシマママコナが開花する夏後半には、屋久島高地部からはマルハナバチがほとんど姿を消してしまいます。では、ヤクシマママコナの花にはいったい何が来ているのでしょうか?

2013年から2015年にかけて3年間、ヤクシマママコナの訪花昆虫の調査をしました。調査方法は簡単です。天気の良い日にママコナの群落の前でひたすら花に来る昆虫を待つのです。たしかに、方法は簡単なのですが、根性はそれなりに必要です。まず、花の前でじっと待つ、というのが結構大変です。いつ、何が来るか分からないので、集中力を切らさないようにしないとイケません。さらに、調査にピッタリの天候の良い日が屋久島ではかなり限られます。晴れが続く予報の時は、いちいち山を下りてはもったいないので。数日分の食糧を持って登り、山小屋にとまりこんで調査をしました。

ずいぶんと前置きが長くなりましたが、調査結果についてです。予想では口吻の短いマルハナバチではないハナバチが蜜を吸いに来るだろうと考えていましたが、実際には小さなハナアブが花粉をなめに来ることがほとんどでした(図2)。ごくまれにコハナバチ科のハナバチが訪れますが、蜜を吸いに行くわけではなく、花粉を集めていきます。ヤクシマママコナはシコクママコナと花の形などが「ちょっと」違う、ということでシコクママコナの変種ということになっていますが、花を訪れる昆虫は「すごく」異なるものでした。(つづく)



図1:シコクママコナ(和歌山県産)に訪れるトラマルハナバチ。



図2:ヤクシマママコナを訪れるハナアブ(Melanostoma)の一種。



#### 屋久島の植物

スダジイ (ブナ科)

本州中部以南に分布する常緑高木で、屋久島では低地から標高600m付近まで見られる。葉は上半分に波状の鋸歯があるか全縁で、裏面は灰褐色で鈍い金属光沢がある。花期は4~5月、新芽の上に雄花の花序が突き出て見える。似た花をつけるマテバシイの花期は6月頃で、スダジイより遅い。

# 屋久島生態系モニタリング



## 屋久島東部地域の垂直方向植生モニタリング調査（平成28年度）

### ●標高200mプロット（愛子岳東側斜面）

林齢164年生の天然林（常緑広葉樹の二次林）。プロットの下方はスギ人工林で、人工林と天然林との境界線の上側斜面に該当。



標高200mプロットの林相

### 【優占種の変化】

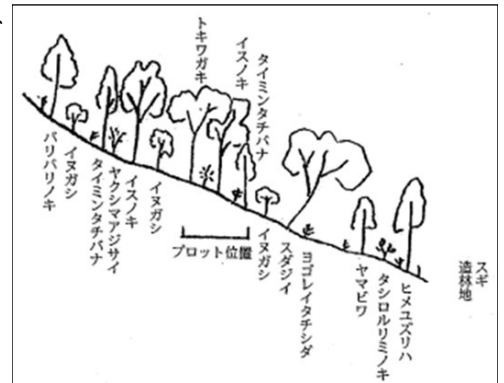
階層区分	2001年	2006年	2011年	2016年
高木層(9.0m以上)	スダジイ	スダジイ	スダジイ	スダジイ
亜高木層(3.0~9.0m)	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ	タイミンタチバナ
低木層(1.2~3.0m)	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ	イヌガシ
草本層(1.2m未満)	ヨゴレイタチシダ	タシロルリミノキ	イヌガシ	ヨゴレイタチシダ

### 【概要】

- スダジイ・タイミンタチバナ群集。特徴的な樹種は、トキワガキ・フカノキ・リュウキュウモチなどである。1個体のハマクサギを確認し、これは愛子岳の全標高のプロット内で初めての記録となった。
- プロットより尾根側斜面は、スダジイやタブノキの高木が生育している。トキワガキはやや先駆種型で、やや疎開した林内に多く更新している。
- ヤクシカによる植生への被害状況については、5年前と比較すると、低木や草本類には目立った痕跡は見られなかった。また、鹿柵内へのヤクシカの侵入は見られなかったし、ヤクシマアジサイが成長し開花している個体も確認できた。



カラスザンショウ実生



群落縦断面図

## 登山者へマナー向上を呼びかける!!

——シャクナゲ開花時期のパトロールを計画——

屋久島森林生態系保全センターでは、本年も屋久島森林管理署と連携・協力し、登山者が多くなるヤクシマシャクナゲの開花時期に合わせて「シャクナゲパトロール」を計画しています。

本年は、5月28日(月)～6月8日(金)の間で計画し、高山植物等の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行うこととしています。



登山道にて花開くヤクシマシャクナゲ

今年は例年になく雪も多く寒い日が続きました。

楽しく登山するには安全で怪我なくマナーを守り、無事に下山することが大切です。屋久島の原始的で雄大な動植物に囲まれ触れていただければ最高の思い出になると思います。なお、これから先は梅雨期に入りますので、安全対策は万全に行いましょう。